

若田さん無事帰還



発行所
山形新聞社

山形市旅籠町2-5-12
電話 代表023(622)5271

Copyright (c) 2009
Yamagata Shimbun

2009年

8月1日

〈土曜日〉

速電
報版子

購読申し込み
(9-17時)

0120-81-8040

やまがた
ニュースオンライン

<http://yamagata-np.jp>

Mbi | eやましん

<http://yamagata-np.jp/k/>



詳しくは山形新聞を
ご覧ください。

宇宙滞在4カ月半

実験棟「きぼう」完成させ

【テープカナベラル(米フロリダ州) 共同】戸部大(日本人として初めて宇宙に長期滞在した若田光一さん(45)を乗せた米スペースシャトル「エンデバー」は米東部時間7月31日午前10時48分(日本時間同日午後11時48分)、米フロリダ州の航空宇宙局(NASA)ケネディ宇宙センターに帰還した。マーク・ポランスキー船長は着陸後の交信で「コウイチ(若田さん)は元気だ」と話した。

若田さんの宇宙滞在は137日と約15時間で完結。滞在后半には6人態勢になった国際宇宙ステーションの一員として、実験の支援や機器の維持管理に当たり、7月には得意のロボットアームを駆使して日本実験棟「きぼう」を完成させた。若田さんはことし3月15日、シャトル「ディスカバリー」で3回目の宇宙へ出発。茨城県つくば市の管制室やNASAの通信主任を務めた後輩の星出彰彦さんとの交信を通じて、ステーション参加国として日本の有人宇宙活動能力もアピール。史上初めて、宇宙にある4種類のロボットアームを使い分け、NASA随一の「アーム使い」としての実力を見せつけた。帰還便のエンデバーの打ち上げが燃料漏れのトラブルで延期され、滞在

が当初予定より1カ月延びるハプニングもあったが、帰還直前の26日には、ステーションからの記者会見で「4カ月半のミッションを全力で走りきった。思い残すことはない」と、任務を達成した満足感をにじませた。着陸後は長期間の無重力生活による骨量減少などから体調を戻すため、45日間の長期リハビリテーションに入る。

若田 光一さん(わかた・こういち) 63年埼玉県大宮市(現さいたま市)生まれ。89年、九州大学院工学研究科の修士課程を修了し、日本航空に入社。92年に宇宙開発事業団(現宇宙航空研究開発機構)の宇宙飛行士候補に選ばれ、93年、米航空宇宙局(NASA)飛行士に認定された。96年にスペースシャトル初飛行。3回目の今回は国際宇宙ステーションに日本人として初めて長期滞在した。



米フロリダ州のケネディ宇宙センターに着陸する、若田光一さんらが搭乗する米スペースシャトル「エンデバー」 = 31日(ロイター=共同)